

令和4年度 地域ケア個別会議 実施結果

高齢者あんしん相談センターふじみ苑

日時及び場所	参加者	自立支援に資する討議内容
9月13日(火) 10:00~11:00 ぱれっと会議室	介護支援専門員3名 サービス事業者3名 増進センター1名 高齢者福祉課2名 管理栄養士1名 生活支援コーディネーター1名 高齢者あんしん相談センター4名  計15名	<p>事例①《ケース概要》 80歳男性。要介護3。訪問介護(入浴介助・掃除)・福祉用具貸与(手すり・電動車イス)を利用。独居。妻は亡くなり、子供とは関係が良くない。アルコール依存で以前市と包括が介入。水頭症の影響で歩行・起居動作に支障あり。記憶力の低下もある。運動不足が原因の下肢の浮腫みがあり、自主的に歩行訓練開始。通所介護は、アルコールが残ったまま行こうとして止められ怒り中止。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 1日2食は栄養不足、主食・副食・副菜を揃える食事が良い。タンパク質不足→夏バテ→食べられない、の悪循環になりやすい。通所介護が難しければ訪問リハはどうか。増進センターの評価・助言をもらってはどうか。支援者の関わり方で本人変わってきている。今後家族との関係修復もできたらよい。</p> <p>事例②《ケース概要》 75歳女性。要介護3。訪問介護(入浴介助・掃除)・福祉用具貸与(手すり・歩行器)を利用。浴槽手すり・シャワーチェア購入。車イスを自費で購入。難病の夫と2人暮らし。緑内障・片頭痛・過敏性腸症候群・発作性頻脈がある。心臓弁膜症・子宮筋腫・圧迫骨折の既往もある。1時間起きているのも厳しく、通所介護は体力的に厳しい。マンション内を歩く。認知面は問題ない。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 本人は、下痢しやすいので少量で体力を付けられる食事をしたいと考えているが、即効性の物はない。3食よく噛んで食べることが大事。口当たりの良い物・補助食品も活用。間食は卵豆腐等が良い。自分でコントロールしているのかもしれないので受診した方がよい。マンション内で月1回サロンがある。リハビリの目的地として短時間でも参加してはどうか。</p>

<p>9月13日(火)</p> <p>13:30～15:00</p> <p>ぱれっと会議室</p>	<p>介護支援専門員7名 サービス事業者1名 増進センター1名 高齢者福祉課2名 生活支援コーディネーター1名 高齢者あんしん相談センター4名</p> <p>計16名</p>	<p>事例①《ケース概要》 83歳女性。要介護2。小規模多機能型(訪問週3回、通所週1回)、訪問看護利用。独居。アルツハイマー型認知症。ADLは自立しているが、金銭管理・内服管理が難しい。買った食材をそのままにし、傷んでも捨てない。週1回サークル活動に参加するが、道中迷子になったことがある。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 サークル活動はこの方のできる唯一のもの。残存機能を大切にしていあげたい。仲間の協力が得られれば長く続けられるのではないかと。アムロジピンは歯肉増殖を起こすことがある。かかりつけ歯科医で定期的に確認した方がよい。訪問看護での支援内容を訪問介護に変えられれば、費用面が抑えられる。徘徊等リスク面を家族に伝えた方がよい。</p> <p>事例②《ケース概要》 75歳男性。要介護2。小規模多機能型(訪問週2回、通所週2回)、訪問看護利用。独居。身寄りはない。敗血症・脳梗塞・出血性胃潰瘍・糖尿病・高血圧・胆石症・認知機能の低下あり。杖歩行。拘りが強い。予期できないことが起こるとパニックになる。光熱費を気にして家では風呂に入らない。調理もガスコンロを使用。1度コンロを爆発させたことがある。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 地域とうまく付き合っていくために電磁調理器・電子レンジも検討。びん沼荘での入浴はどうか。畑仕事が好きならば、ボランティア活動はどうか。ボランティアスタンプで小遣い程度だが本人のやる気に繋がればよい。身寄り無いならば成年後見検討しておいた方がよい。</p>
<p>12月15日(木)</p> <p>13:30～14:30</p> <p>ぱれっと会議室</p>	<p>介護支援専門員7名 サービス事業者1名 増進センター1名 高齢者福祉課2名 生活支援コーディネーター1名 高齢者あんしん相談センター4名</p> <p>計16名</p>	<p>事例①《ケース概要》 83歳女性。要介護2。訪問看護・訪問介護(調理・掃除・洗濯・買い物代行・入浴介助)・福祉用具貸与(手すり)利用。月1回社協協力会員(掃除)も利用。左外転神経麻痺・高血圧・高脂血症・糖尿病・ペースメーカー埋込・尿管結石。訪問診療を利用。独居。機能的には歩けるが紙オムツ使用。意欲低下が顕著。体重増加傾向。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 痩せるメリットが本人の中にはないのではないかと。外に出る楽しみを作ってはどうか。この方の場合のリハビリは、ストレッチや関節の動きの確認から入るのではなく、本人に動いてもらうこと(能動的なリハビリ)を中心に行なった方がよい。</p> <p>事例②《ケース概要》 74歳男性。要介護1。訪問介護(掃除・布団干し・ごみ捨て)・通所介護利用。幼少期から知的な遅れがあったようだが、診断は受けていない。独居。近所に弟がいる。家にミシン4台、掃除機4台ある。不要と思われる物を溜めている。通所介護は休みがちだったが、弟にやめろと言われてから定期的に行くようになった。弟が強く家族支援が怖いと感じることがある。 《課題・検討内容・自立支援に向けて》 本人なりの生活は送れている。弟にも理解を求めることが大事。歩み寄ってもらえるように声掛けし、お互いをなだめルール作りで帳尻を合わせたらどうか。他者と関わるのが苦手な方だったが、デイに通えてることがすごい。その点を弟にも認めてもらいたい。</p>